

川崎陸送

新入社員が課題発表 研修動画・マニュアル作成

在宅で社会人スタート

川崎陸送の井本光星さん(19)、須賀響さん(21)、田村理子さん(21)、井上優太さん(20)、中山颯太さん(20)は、新型コロナウイルスの影響が拡大する中で入社し、同社で最長の研修期間を過ごした。研修は入社直後から在宅勤務で行うなど、例年の研修では見られないスケジュールと内容で実施。過去に例を見ない環境下で社会人となった5人に、研修で得た

経験やこれからの抱負などについて聞いた。例年は、入社する4月から5月末まで関東に集まって研修を行うが、今年には新型コロナウイルスの影響でスケジュールと内容が大きく変更された。5月中旬まで在宅で研修し、その後は各自の地元から近い営業所で実習。6月末に初めて5人が関東で集まり、入社式を行った後、本社を含めた各拠点での実習や、課題発表などに

取り組んだ。社会人生活が在宅で始まったことに対し、「い

つ関東で研修できるのか、親も心配になっていった」(井本さん)との声

が上がる半面、「普段と変わらない環境の中で社員の方と関わったり、研

修を行ったりして、徐々に会社に慣れることができた」(須賀さん)、「関東に来て研修した時、リモートで顔を合わせていたので心強かった」(田村さん)などの声もあり、仕事や会社といった環境の変化に順応しやすい面もあるようだ。

研修で印象に残ったことについては、「最も過酷」だった業務というところで、EC(電子商取引)向けにペットボトルの箱詰め替え作業が挙げられた。更に、自動倉庫の見学や、薬品を車両から納品

動画の作成を課題に設定。4月に入社した新入社員5人が2グループに分かれ、両グループはそれぞれ作成したマニュアルについて発表した。

新人社員は葛西流通センター(江戸川区)グループと関東営業所(埼玉県坂戸市)グループに分かれて実施。それぞれの拠点ではマ

ニュアル作成が課題に上が

りやすいマニュアル作成に臨んだ。

ヒアリングしつつ、ドライバードライバーや指導員に内容を、1日の流れ、安全への取り組みなどをマニュアルや動画にまとめた。一方、安全上の注意、フォーク

リフトにおける危険箇所な

どを盛り込んだ。このほか、新型コロナウイルスの感染拡大による疲れとストレスを解消する社内企画提案を個人発表で実施。フォトコンテストやハズレのコンテストなど多様な案を発表した。最後に辞令を交付し、樋口社長が新入社員に名刺を手渡すとともに配属先を通知。新入社員は17日から各配属先に着任している。

開会のあいさつで、樋口社長は「当社としては最長となる研修期間となった。新型コロナウイルスの影響が拡大する中でも手を抜かずに研修してきた。我々は皆さんが質問することに対して給料を支払っている。皆さんは質問しながら一歩ずつレベルアップして欲しい」と期待の言葉を述べた。(井内亨)



4月に入社した(後列左から)須賀さん、井上さん、田村さん、(前列左から)中山さん、井本さん

川崎陸送(樋口恵一社長、東京都港区)は11日、新入社員課題発表会を開催した。新入社員の研修に利用できるマニュアルと研修用

動画の作成を課題に設定。4月に入社した新入社員5人が2グループに分かれ、両グループはそれぞれ作成したマニュアルについて発表した。

新人社員は葛西流通センター(江戸川区)グループと関東営業所(埼玉県坂戸市)グループに分かれて実施。それぞれの拠点ではマ

ニュアル作成が課題に上が

りやすいマニュアル作成に臨んだ。

ヒアリングしつつ、ドライバードライバーや指導員に内容を、1日の流れ、安全への取り組みなどをマニュアルや動画にまとめた。一方、安全上の注意、フォーク

リフトにおける危険箇所な

どを盛り込んだ。このほか、新型コロナウイルスの感染拡大による疲れとストレスを解消する社内企画提案を個人発表で実施。フォトコンテストやハズレのコンテストなど多様な案を発表した。最後に辞令を交付し、樋口社長が新入社員に名刺を手渡すとともに配属先を通知。新入社員は17日から各配属先に着任している。

開会のあいさつで、樋口社長は「当社としては最長となる研修期間となった。新型コロナウイルスの影響が拡大する中でも手を抜かずに研修してきた。我々は皆さんが質問することに対して給料を支払っている。皆さんは質問しながら一歩ずつレベルアップして欲しい」と期待の言葉を述べた。(井内亨)